

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

道元禅師

平成28年1月第4週放送

曹洞宗の大本山永平寺を開かれた道元禅師は、鎌倉時代の西暦1200年に京都にお生まれになりました。幼い頃から中国の詩や歴史に興味を持つなど、聡明な少年でしたが、8歳で母を亡くされ、命の無常を觀じたことがきっかけとなり、仏門を志します。その頃、伯父である摂政藤原基房が養子に迎えて朝廷の要職に就かせようとしたのですが、佛道を求める心は変わらず、13歳の春に比叡山に向かい、翌年には出家得度されました。

24歳で今の中国宋の国に渡り、広く教えを求めて各地のお寺を巡りました。そしてついに、揚子江のほとり、天童山で師匠となる如浄禅師と出会い、坐禅修行をする中で、漸くお釈迦さま直伝の仏法を受け継がれたのでした。

道元禅師は28歳で帰国されると、先ず、日本に正しい坐禅の作法と心得を伝えようと『普勸坐禅儀』を著され、34歳の時に京都に興聖寺を建立して最初の修行道場とし、僧侶の養成と信者の方々への布教教化を始めます。そして、『正法眼蔵』をはじめとする多くのお示しがなされました。

その頃に信者となった武将波多野義重公との出会いがありました。その招きにより、今の福井県、越前の地に永平寺を開かれ、厳しい坐禅の修行を行いながら多くの教えを示されました。後年、病気のために全てを弟子の懷舜禅師に譲り、療養のために移った京都でお亡くなりになりました。

そのご生涯に通じるのは、良き師匠や弟子、良き協力者との出会いであり、またその良き出会いを求めようとする真っ直ぐな信念では無かったでしょうか。

私たち人間は、さまざまな人とのご縁の中で生きています。生まれては親の養育を受け、物心がついてからは地域や学校、社会の中で多くの人々と出会い、生き方や進むべき道を教わります。

その折々に、私たちは人生の良き師匠との出会いを真剣に求め、自分自身の進むべき道を見いだすことができているのでしょうか？

道元禅師の佛道を求める心に倣い、今からでも、更なる良き人との出会いを心掛けたいものです。

— 終 —